

2022（令和4）年度
相模原看護専門学校
一般入学試験

国語

（試験時間 50 分 配点 100 点）

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答する途中で、ページの落丁・乱丁や印刷不鮮明の箇所および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
3. HBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムで完全に消してからマークしてください。
4. 氏名を記入し、番号欄を正しくマークしてください。
5. 試験終了の合図と同時に解答を止め、鉛筆を置いてください。
6. 解答用紙は試験官の指示に従って提出してください。

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

研究に一生を投じた人の **a** 業セキの全体に目を向けて初めて分かることがあります。学者とはそれぞれ自分の根本的な問題を自分に課しているもので、その課題に対する答えをおのおのが力の限り追究した結果が、いわゆる **a** 業セキなのだということ。

私はある時期、**ア**「言語とはいったい何なのだろう」という問題に自分なりの答えをもちたいとあれこれ考えたことがありました。私は本来、そういう課題をもって国語学に進んだのではなかったのに、私がそうだったいきさつは、こんなことでした。

大学に入ったとき、私は橋本進吉先生の演習に出席し、その一 **A** **B** を細かく追究する学問、透明な思考を重んじる行き方を感じ入り、国語学を選んだのです。

橋本先生の一生の課題は「日本語はいかにあったか」ということでした。奈良時代には発音はどうだったか、どんな単語がどういう意味で使われたか。平安時代にはどうなったか。発音や文法や個々の単語の意味は一つの時代から次の時代へとどう **b** 変センしたか。当然、橋本先生は資料を大切にし、学生にもその扱い方と理解のしかたをくわしく教えられました。ところが、その後任として来られた時枝誠記先生の根本的な課題は「言語とは何であるか」ということでした。奈良時代の母音はいくつか、室町時代の一つの単語がいつ栄え、いつごろ亡びたかなどという過去の個別的事実は問題にされず、かわって追究されたのは「言語とはどんな行為なのか」でした。

第二次世界大戦中、私は万葉仮名について論文を書いて大学を卒業し、研究室に助手として勤めるようになりました。昭和二〇年に入って橋本先生は亡くなられ、その頃から東京の空にはしきりに空襲警報が鳴り渡るようになり、とうとう時枝先生のお宅は焼夷弾で焼かれ、先生は奥さんとお子さんを軽井沢の別荘に **c** ヒ難させて、御自身は本郷の東京大学の研究室に寝泊まりされるようになったのです。

「言語とは何であるか」という問いに対しては、その頃は、例えば言語は社会的制度の一つであるという意見もありました。言葉づかいを間違えれば人々から嘲笑を受け、ときには **一** せられる。だから言語は制度であるという。しかし、時枝先生は「言語は人間に外在するものではなく、ダンスや絵画と同じく、人間の表現行為の一つである」という答えをも

ち、それを **㊦** にすえて初めて言語のあらゆる **d** 現シヨウが理解されると、人間の主体的なはたらきを力説されました。例えば文字も人間の主体的なはたらきによる理解なしには、単なる「**㊧**」の集合」にすぎないなど。時枝先生はおっしゃったことがあります。「橋本先生のお弟子は資料に埋もれていてものを考えない」

時枝先生の考え方の **㊨** をたどると、「主体性」の強調にはそれなりの根拠がある。しかし、時枝理論にはどこか納得しにくいところがあり、私はそれを明確にしたいと思っていました。

今はなつかしい思い出ですが、戦争末期、食べ物とぼしく、朝、研究室にいくと、先生は文学部棟と図書館の間の小庭に植えたサツマイモの葉をもいできて湯がき、わずかな蛋白源として蚕かいこの黄色いサナギの粉と塩をふりかけて私に下さった（土がかたく、イモ自体はならなかったのです）。それをいっしょに口にしながら、先生と私は「言語とは何か」と論議をくりかえす。それが日課で、八月一五日の玉音放送があった午後も教授室に行つて「昨日のつづきです」などとあれこれ言ったりしていました（さすがにこの日、先生は **e** キ嫌きけんが悪く、結局「顔を洗って出直してこい！」と言われて、**イ** ほうほうの体で退散しました）。

「それでは先生は言語は通じるものとお考えなのですか、通じないものとお考えなのですか」

「言語は通じるときもある、通じないときもある」

なるほど、言葉は甲と乙の間で物を受け渡すような、甲の渡したものがそのまま乙の手に残るといったものではない。言葉のやりとりの間には、誤解が日常的に生じている。つまり通じない。曲解ということさえある。曲解とは間違っていること知らながら、都合のいいように解釈すること。また、これは事実ではないと知りながら、あたかも真実のようにいう「嘘」もある。われわれはそういう確かさの欠如、不安の中で生きている。言語とはそういうものか。空襲におびえ、機銃掃射の危険の下を逃げまわっている間も私はあれこれ考えていました。認識論、社会学、論理学など不馴れな学問の本を手にしたりのりしたのもその頃です。

いったい、言語とはどんなときに使われるだろう。

例えば、ここにABC三組の男女がいる。三組とも会話をしない。Aの組は結婚したばかりで、夫は原稿を書いている。妻は何くれと手仕事をしている。二人は黙っていて、言葉はないけれど、妻は夫の気持が分かつて満足している。夫も妻の

心が分かっている。ここには会話がいきりません。Bの組は結婚何年目か。この二人も会話をしない。二人は近々離婚するのです。何年もの恨みや憎しみがおたがいの心に満ちている。Cの二人はじつは恋仲なのだが、心の奥深くに思っていることを言葉の形にできなくて黙っている。

言葉を使うときはいつも相手と関わりたいという心をもつとき。相手が自分について、また自分の思うことについて分かっているところがあるのを、分かってもらいたいと相手に求め、相手の注意を引き、相手の知らない事柄を知らせる。そういうときに言語を使う。泣くとか抱きしめるという行動でそれを表すこともある。言語はそういう表現行為の一つです。

言葉は制度とか決まったもの^エとかではない。しかし思うままに造形する絵画のような、主体性だけによってなされる表現行為でもない。言葉には社会的な規範がある。その規範にかなう形式に従わなければ、主体的に自分の気持や事柄を相手に表現することはできない。受け手は規範に従って表現を受け取り、理解につとめる。聞くことも読むことも、主体的な能動的な行為です。それは規範に従うことを通して成り立つ。言語とはそういう表現行為、理解行為の全体をいうのではない。私がこう言えるようになったのはかなり後のことでした。

言語をそう見る点で、私は今も変わっていない。自分の思うところをaと表現したとき、相手がaと取ったとしたら、それは相手がaと取り得るように表現した自分が悪い。相手が分からないと言ったら、分からない表現をした自分が悪い。相手がaと取れるように、aとだけしか取れないような形式を選び出して表現することを心がけなくてはならない。言葉は天然自然に通じるものではなくて、相手に分かってもらえるように努力して表現し、相手をよく理解できるようにと努力して読み、あるいは聞く。そういう行為が言語なのだとは私は考えています。

(大野晋『日本語練習帳』より)

問一 傍線 a～e のカタカナと同じ漢字を使うカタカナを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

解答番号は a || 1 ・ b || 2 ・ c || 3 ・ d || 4 ・ e || 5。

a

業セキ

1

- ④ セキ任を果たす。
 ③ 成セキが上がる。
 ② 宴セキを設ける。
 ① セキ年の努力が実る。

b

変セン

2

- ④ たたずまいをセン練する。
 ③ 職業に貴センなし。
 ② 研究にセン念する。
 ① 遠方に左センさせられる。

c

ヒ難

3

- ④ 言動をヒ判する。
 ③ 危険を回ヒする。
 ② 申し入れを拒ヒする。
 ① 問題の是ヒを問う。

d

現シヨウ

4

- ④ シヨウ状が悪化する。
 ③ シヨウ味期限が過ぎる。
 ② 事故を検シヨウする。
 ① 事実を抽シヨウ化する。

e

キ嫌

5

- ④ キ械が故障する。
 ③ キ分転換する。
 ② キ日に間に合う。
 ① キ本を繰り返す。

問二

A・Bに入れる文字の組み合わせとして適切なものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 期・会
- ② 挙・動
- ③ 進・退
- ④ 点・画

問三

・・・に適切な文字を一つずつ入れて、それぞれ記号をマークせよ。

解答番号は ・・・。

- ① 筋
- ② 罰
- ③ 軸
- ④ 線

問四

傍線ア「言語とはいったい何なのだろう」について、**筆者の考え**を次の中から一つ選び、記号をマークせよ。

解答番号は 。

- ① 社会的な規範にかなう形式に従うことによって、主体的に自分の気持ちを表現する能動的な行為。
- ② 相手と関わりたいという心をもつとき、分かってもらいたいと相手に求め注意を引く表現行為。
- ③ 人間に外在するものではなく、人間の表現の一つであり本来的で主体的な行為。
- ④ 相手に分かってもらえるように表現し、相手をよく理解できるように受けとめる行為。

問五

傍線イ「ほうほうの体で」の意味として最も適切なものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 後ろ髪ひかれて
- ② かるうじて
- ③ 恐縮して
- ④ そそくさと

問六 傍線ウ「われわれはそういう確かさの欠如、不安の中で生きている。」について、この理由として適切なものを一つ選び、

記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 言葉の誤解や曲解が日常的だから。
- ② 真実と「嘘」は時代によって変わるから。
- ③ 戦争末期で食糧がとぼしいから。
- ④ 第二次世界大戦中の社会状況下にあるから。

問七 傍線エ「社会的な規範」の意味として適切なものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 個人の権利を尊重する人間の権利。
- ② 伝統的に形成されてきた暗黙知。
- ③ 人間関係に存在する約束事。
- ④ 共同体を維持するためのモラル。

問八 本文の内容に合致しないものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 戦時中の言論統制が、むしろ言語とは何かを追究する思考を後押しした。
- ② 沈黙にはいくつもの意味があるので、思いを行動で表わすこともある。
- ③ 言葉とは規範にかなう形式に従う一方で、主体的な能動的行為である。
- ④ 学者とは、それぞれが根本的な問題を自分に課しているものである。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「自立」ということは、人々の心を惹きつける標語として、長い間その地位を保ち続けているようである。時代によって、そのような標語は変化するもので、かつては「滅私奉公」などというのが幅をきかせていたが、今は a 評バンがよくない。「自立」は、その魅力をなかなか失わずにいるようである。しかし、どのような有難い標語でも、それが人気と共に一人歩きをはじめると、^イ不都合なことも生じてくると思われる。

いつぞや、こんなことがあった。幼稚園の子どもで言葉がよく話せないということ、母親がその子連れて相談に来られた。知能が別に b オトっているわけでもないのに、言葉が極端におくれている。よく話を聞いてみると、その母親は、子どもを「自立」させることが大切だと思い、できる限り自分から離すようにして子どもを育てたことである。夜寝るときもできるだけ c ソイ寝をしないようにして、一人で寝かせるようにすると、はじめのうちは泣いていたが、だんだん泣かなくなり、一人でさっと寝にゆくようになったので、親戚の人たちからも感心されていた、というのである。

このようなとき、その子の「自立」は見せかけだけのものである。親の強さに押されて、^d辛ボウして一人で行動しているだけで、それは本来的な自立ではなく、そのために言葉の障害などが生じてきている。このときは、そのことをよく説明して、母親が子どもの接近を許すと、今までの分を取り返すほどに甘えてきて、それを経過するなかで、言葉も急激に進歩して、普通の子たちに追いついてきたのである。

自立ということを依存と反対である、と単純に考え、依存をなくしてゆくことによって自立を達成しようとするのは、^ウ間違ったやり方である。自立は十分な依存の裏打ちがあつてこそ、そこから生まれでてくるものである。子どもを甘やかすと、自立しなくなる、と思う人がある。確かに、子どもを甘やかすうちに、親の方がそこから離れられないと、子どもの自立を妨げることになる。このようなときは、実は親の自立ができていないので、甘えること、甘やかすことに対する免疫が十分にできていないのである。親が自立的であり、子どもに依存を許すと、子どもはそれを十分に味わった後は、勝手に自立してくれるのである。

自立と言っても、それは依存のないことを意味しない。そもそも人間は誰かに依存せずに生きてゆくことなどできないのだ。自立ということは、依存を ^e排シヨすることではなく、必要な依存を受けいれ、自分がどれほど依存しているかを自覚

し、感謝していることではなからうか。依存を排して自立を急ぐ人は、^エ自立ではなく孤立になってしまふ。

このあたりのことが未だあまりわからなかった頃、私はヨーロッパに行き、ヨーロッパの人たちは日本人より自立的だから、親子の関係などは、日本よりはるかに薄いのだろう、などと勝手なことを考えていた。A、実際にスイスに行ってみると、親子が離れて暮らしている場合、電話で話し合ったり、贈物をしたり、あるいは、時に会食したりする機会が日本人より、はるかに多いことに気づいて不思議に思ったことがある。これをよく観察して思ったことは、彼らは自立しているからこそ、よくつき合っているのだ、ということであった。B、つき合いの機会を多くすることによって、自立を破壊されるというおそれを感じていないのである。

これが、日本の場合であれば、うっかり親と話をすると、何か自分の自立をおびやかされそうに感じる。あるいは、自分は自立しているから、別に親と会ったり、話し合ったりする必要がない、と考える。このような傾向が強くなるのではなからうか。しかし、それはよく考えてみると、自立ではなく孤立になっているように思われる。確かに、親子の関係がベタベタとしていて、自立ができていないな、と感じさせられる場合もある。このようなときは、依存を裏打ちとしての自立というより、依存のなかに両者ともに溺れこんでいる、という感じがする。

このようなことを考えていたら、心理学の世界でも、自立と依存とを対立するものとしては把えずに、むしろ、必要な依存が自立を助ける、というような観点からの研究がだんだんと出てきて、^オわが意を得たりと思っている。

人生のなかには、一見対立しているように見えて、実はお互いに共存し、裏づけとなるようなものが、あんがい多いのではないか、と思われる。そのような目で自分の生き方を見ると、必死になって、^e排ジヨしようとしていたものに価値があることがわかるのではなからうか。その発見によって、生き方に厚みがでてくると思われる。

(河合隼雄『こころの処方箋』より)

問一 傍線 a～e のカタカナと同じ漢字を使うカタカナを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

解答番号は a || ・ b || ・ c || ・ d || ・ e || .

a 評バン

-
- ④ ③ ② ①
- 敵とハン目する。
真偽をハン定する。
試験ハン囲を勉強する。
ハン雑な仕事に追われる。

b オトつて

-
- ④ ③ ② ①
- 舞台をコウ板する。
不正行為を軽ベツする。
予算をカ方修正する。
電池がレッ化する。

c ソイ寝

-
- ④ ③ ② ①
- エン岸を警備する。
ヘン境の地を旅する。
バスにテン乗する。
ヨ席で落語を聞く。

d 辛ボウ

-
- ④ ③ ② ①
- 塀でホウ囲する。
新年のホウ負を述べる。
嘘もホウ便だ。
仕事にホン走する。

e 排ジヨ

-
- ④ ③ ② ①
- 注意力が欠ジヨしている。
工事でジヨ行運転する。
警報を解ジヨする。
物語をジヨ述する。

問二 傍線ア「滅私奉公」の意味に最も近い語を一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 公明正大 ② 自己犠牲 ③ 自主独立 ④ 責任転嫁

問三 傍線イ「不都合なこと」の内容を本文中で説明しているものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 。

- ① 親の一方的な思い込みによって、子供の自立が見せかけになっていること。
② 子どもの言葉が極端に遅れていることを、親が心配すること。
③ 標語をありがたく思いすぎることによって、それが一人歩きを始めること。
④ 子どもが一人で寝にゆくことを、親戚の人たちが感心すること。

問四 傍線ウ「間違ったやり方である。」について、この理由を筆者はどのように考えているか。適切な選択肢を一つ選びマ

クせよ。解答番号は 。

- ① 自立と依存は反対ではなく、子どもを甘やかすと自立しなくなると思う人がいるから。
② 自立と依存は反対ではなく、親の自立ができていないので、甘えること甘やかすことに対する免疫ができていないから。
③ 自立と依存は反対ではなく、子どもは十分に甘える段階の次に自立できるようになるから。
④ 自立と依存は反対ではなく、親は子どもがいつか自立することを信じ、見守るといふ親の自立が必要だから。

問五 傍線エ「自立ではなく孤立になってしまう。」とはどういうことか。適切な選択肢を一つ選び、記号をマークせよ。解答

番号は 。

- ① 社会生活の中で利己的になること。
② 権利のみを主張し義務を果たさなくなること。
③ 言語活動に支障を来すようになること。
④ 人間関係が作りにくくなること。

問六

A・Bに入る適切な語を選び、記号をマークせよ。解答番号は 25・26。

- ① つまり ② たしかに ③ なぜなら ④ ところが

問七

傍線オ「わが意を得たり」に最も意味が近いものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 27。

- ① 確信 ② 当然 ③ 慢心 ④ 静観

問八

本文全体の内容に合致しないものを一つ選び、記号をマークせよ。解答番号は 28。

- ① 一見対立しているようにみえる概念でも、それが相互に共存し裏つけとなるものが多い。
② なくそうとしていた依存心を必要として受け入れることよって、自立につながることもある。
③ 日本よりもヨーロッパの方が自立的だから、ヨーロッパの親子は疎遠な関係である。
④ 心理学では、自立と依存を対立するとは捉えない観点からの研究が行われつつある。

《以下余白》

